

現 地 に 見 る —

建設の並行



パラナ河を基点として岩手村が拓かれていく。



住宅は無尽蔵にある木材やレンガなどで立派に建造される。



マテ茶の栽培も盛んである。

本県の第一陣九家族は、他県の七家族とともに八月四日横浜港出帆のアルセンチナ丸（二万八百ト）で勇躍先發した。

移住者は初めて見る外国風景を楽しみながら、最終湾エノスアイレスに全無事上陸、三日後目指すアルト・ラナ地区に荷物と同時に到着した。現地ではすでに同地区の第二陣（六月横浜出帆）第二陣（七月出帆）の高知、愛媛、徳島、山梨、鹿児島、長崎、このほか教果の移住者七十家族が、ロッテ割を終了、各自の耕地を整理し、野菜主食の付付けをすまっていた。従て岩三郎は第二陣となるが、たゞちに海監護の建築になる取捨所に全家族がおちついていた。地区内には、十戸巾の幹線が二本、縦横に走る主線は巾十六戸の立派な道路が完成し、いずれの耕地にも自動車はいれる。

この清野に沿つてそれぞれの入植地の選定にあつた。一日、千早から、千七百七十五位を徒坂で見てゐたが、予想にたがわず、一面、千数百年は無肥料耕作可能ないわゆるアキラロシヤ土壌で全く目を驚かすようなすばらしさであつた。林相あるいは草類の繁殖状況から見ても、また先陣者の作付けのトウモロコシの伸び方から見ても皆の如くする。にこやかに人々々の顔を見て、まず第一の安心を得た。

氣候は、やうく夏に入る季節で、最も十八度位、夜は十八度位という、好適な温度で、日中の直射光は少し暑は感ずるが、夕方からはすっと涼しくなり、夜は毛布を二、三枚かけて寝る程度でよく、蚊帳は十一月、十二月頃にもちよとの間使用する位。これも、山林伐採するの蚊は全然いなくなるという話であった。また、最低気温時期は六月頃で二、三回の霜が降りる程度である。

い所である。一戸三十ヘクタールの耕地は一辺一ポロの長さを持ち、テラロシヤのゆるやかな起伏で沢水あり、丘あり、平地ありで、どのロットでも同じだという結論が出て、場所の選定は、先陣の他県人が占めている。

アルトナナ河から十三キロの吾幹線附近をやめ、七キロの第一号幹線との間にある地区の中央にあたる第二号幹線に沿って岩手村を建設することにみんなの意見が一致し、まず地区の入口から各個人の開墾までわずか三日間を決定し、喜びのうちにピールの祝杯をあげる事が出来た。

三ヘクタールを各旨が山伐りと同時に建築資材ととり、仮小屋を建て、出来るだけ早く収容所から自分の耕地に移ることとした。

耕地とする三ヘクタールは一ヘクタールあたり八千五百円で現地に請け負わず手配をする。

名和の古類、和歌の巻、それとね、三分の一のたし、特
ることも話し合いが出来た。

伐採完了、山焼までの乾燥、山焼、山焼後の整理
播種などの予定表をつくり十二月の作付けに十分間
に合う段取りを協議し合つて、四日目が早稲実行
につづくこととした。

同地帯の作物の種類は、陸稻、小麦、トウモロコシ、大豆などをはじめ野菜類はトマト、キユウリ、人参、ゴボウ、長イモ、葉菜類一切、果物については、リンゴを除いて西瓜、マクワ瓜、ブドウ、桃、栗、梨、とくにミカン類は優秀で野生のものも相当にある。これらのほか、日本でできないバナナ、パイナップルまで生育できる。永年作物としては、マテ茶、ミカン類もあるがペイントの材料として国際市場をもつ油桐の植栽は将来かなり有望なものがある。

— 發足した岩手村を

南米に響く



未開地は機械力によつてどんどん拓かれていく。



間もなくこうしたとうもろこしの栽培が行なわれ、年二回の収穫に恵まれる。



主作物の一つとして綿の栽培も盛んに行なわれる。